



広重版画より 三島 朝霧

第2415回例会

2025.3.27晴

司会

栗原達治君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 南木一仁君

会長挨拶

副会長 藤江康儀君

皆さまこんにちは、副会長として久しぶりの挨拶です。
3/22(土)伊東市観光会館においてPELS会長エレクトラニングセミナーに次年度幹事森藤君と参加してきました。ガバナーエレクト稲葉雅之氏の出身クラブが伊東西ロータリークラブということで、静岡県、山梨県から伊東に集結しました。大変暖かい日でありましたが、缶詰めで講演、会議等盛沢山の内容をこなしてまいりました。なんか、いよいよだなあという感じがしてきたような気がします。
稲葉ガバナーエレクトからRIマリオ次年度会長のお話があり「最優先事項は、会員増強である」とのメッセージから始まりました。そのほか「会員増強をはじめ親睦の功罪」という点からいろいろな視点での検証が必要であるとのお話がありました。詳しくはまたお話しさせていただきます。
私も次年度会長予定者ということで、鈴木会長に特別委員会を設置して長期ビジョンを検討させていただきたいということで川名委員長以下若手のメンバーでいろいろ検討していただき、先日3/24に商工会議所で検討結果のプレゼンをしていただきました。内容につきましては、後に発表させていただきますが、プレゼンを聞きながら、まず機構改革が必要ではないかと感じました。
一つは、長期ビジョン3年から5年計画を検討していることから特別委員会の存続、二つ目には、ロータリーの組織の機構改革が必要ではないか。このようなことから、4月にパスト会長会議にて提案させていただきたく思います。
三島西ロータリークラブの活性化と何より、新規会員獲得の手段として会員増強に期することになると確信しておりますので、ご検討をお願いいたします。

“こんにちは、ようこそ”

ビジター 西島昭男君 (沼津北RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メック	修正率
前々回	39/50	78.00%	41/50	82.00%
今回	37/48	77.08%	会員総数	53名

欠席者 赤池君、秋山君、芦川君、窪田君、須田君、
諏訪部(行)君、諏訪部(照)君、千葉君、橋本君、
古屋君、森崎君

幹事報告

幹事 加藤憲勝君

- 1.本日の例会、卓話は町野暉君です。よろしくお願ひします。
- 2.本日、岩崎さんが最後の出席となります。今までありがとうございました。
- 3.23日(日)平出国際交流委員長、遠藤眞道さん、前田博利さんとともに交換中学生6名が台湾、苗栗に向けて出発しました。帰国は29日(土)です。
- 4.RLI PART IIIが5月11日(日)にオンラインで開催されます。すでにPART I、IIを受講されている方が対象です。参加希望がありましたら幹事までお願ひします。
- 5.4月22日(火)伊東ロータリークラブ主催川奈ホテル富士コースゴルフコンペを開催するそうです。前日ゴルフや前泊などの案内もありますのでご確認ください。4月7日(月)静岡第1グループ親睦ゴルフ 中伊豆グリーンゴルフクラブ 8:30、5月21日(水)小泉DG杯ゴルフ大会 富士ゴルフコース 8:00、についても参加希望の方がおられれば本日中午に幹事の方までお願ひします。
- 6.次回例会は4月3日(木)12:30から通常例会です。卓話は秋山 恭亮君です。よろしくお願ひします。

客家について

町野 暉君

前回の卓話の中で、客家について少し触れましたが、今回、客家に関して、もっとみなさんにご紹介したいと思います。私は客家に興味を持ち始めたのは三島西ロータリーに入って、苗栗ロータリーと交流している中、苗栗クラブのメンバー及び苗栗県には客家出身が多いからです。客家の先祖やルーツは私の出身地である河南省あたりからと言われて、皆さんが知っている苗栗クラブのドクター先生、学校の黄先生、昨年亡くなられたばかりさん等は客家です。この卓話するため、客家の歴史を書いた本から抜粋して紹介したいと思います。

客家の「客」は通常ゲストやお客さんという来訪者という語感でや好感をもって使われています。現在、台湾、東南アジア、アメリカなど世界中に分散されている客家は一体、どこから来たのかという、文献上によると、そのルーツは古代中国の殷、商時代、つまり紀元前16世紀頃、客家は中国文化発祥の地である中国の中原地域、つまり中国北部・黄河流域を指す名称で、古代中国王朝の所在地でもあった地域が起源と言われていています。中国では漢民族が多く、七割強は漢民族で占められ、客家はそのルーツを持つ正統な漢民族とも言われています。この中原地域は三国志の蜀、魏、呉の中で魏、曹操が制覇・支配した地域と言えば分かりやすいかもしれませんが。資料によると、客家は歴史上、5回の大移動を経て、戦争や自然災害などの要因で中原地域から山岳地帯を通って中国の南地域に南下し、移住して来た人々です。この中原地域は歴史上、戦いは非常に多く、戦乱の中を生き残るため、中国の南東部に移住したと言われます。その主な移住先は中国の南東部の江西省、福建省、広東省の境界地域です。地理的に言うと江西省の南部、福建省の西部、広東省の東部を指します。現在、この境界地域の漢民族の90%以上が客家で占められています。余談ですが、私の中国実家の河南省の知合いが仕事の関係でよく福建省に行くと、福建省の仕事パートナーは客家出身という事で、福建省に行くと、2人は仕事を越えた関係になって、すぐ歓迎され、毎回自宅に招待され、美味しい料理やお酒で接待されるそうです。福建省の客家からみると、河南省から来た人は自分のルーツ、或いは先祖がいた場所の人間で、すごく親しみを感じているという事です。現在、世界中に住んでいる客家がほとんど江西省、福建省、広東省の境界地域から移住して来たと言われていますが、この地域は客家の故郷とも呼ばれています。中国ではもっとも客家人口が多いのは江西省(広東省の上にある省)です。ただし、広東省は世界中に最も多くの客家を送出していると言われていて、因みにいまのタイ首相、ペートンタン氏、つまりタクシン元首相の娘、そして元首相のインラック氏、ペートンタン氏のお父さんタクシンの妹さんはみんな、昔、広東省の梅県からタイに移住した客家です。また、初代シンガポール首相として知られているリークアンユーも広東省の梅県からの客家です。

客家はかつて中華文明の栄えた中原に居住していたんですが、異民族の侵入により南へ南へ逃れることを余儀なくされた人々です。大昔、客家の先祖はどのような経路をたどって、「客家の故郷」である中国東南部へ移住してきたかと言うと、黄河流域から南へ移動した後、まず江西省贛州(かんしゅう)の地に辿り、そして贛州からまた福建省の寧化(地名)あたりへ移動したと言われていています。客家は福建省の寧化を重要な経路地と位置付ける背景には

歴史の記録として客家社会に伝わる昔話があります。それは葛藤坑の物語です。

中国の唐の時代の末(9世紀の末)、塩の密売人、黄巢という人が黄巢の乱を起こしました。中原地域は黄巢の乱により、荒れ果てて、人々は中原から別の場所へ逃げざるを得なくなりました。黄巢が率いる軍隊が福建省の寧化あたりに辿り着いたところ、ちょうど2人の子供を連れた女が安全な場所を求め逃げ歩いているところではばったりと会いました。黄巢がその女が大きい男の子を背中に背負い、小さい男の子を歩かせているのを見て不思議に思い、なぜそのようなことをするかと女に尋ねました。すると女は相手が黄巢の乱を起こした黄巢の反乱軍とは知らずに次のように答えました。「この大きい子供は私の兄の子供です。戦争で父母と兄が亡くなった今、もしこの子に危害が及べば父兄の系譜は途絶えてしまいます。そのため、まず兄の子を守るために背負っています。小さい子は私自身の息子です。私の子供はなくなったら、私は子供を産めば良いです。」と答えました。黄巢はこの女の道徳的な振る舞いに感動しました。すると「あなたは村に帰ったら、家の門のところに(ツヅラフジ)の葉を掲げなさい、そうすれば黄巢の連中は決してあなたたちに危害を加えない」と言いました。(ツヅラフジは植物で、森によくある落葉(らくよう)つる性植物)です。女性は村に戻るとこの話を村の人々に話し、村の人々は村の入り口、家の門にツヅラフジの葉を掲げました。そのため、この村は黄巢の乱の被害を受けることのない安全な場所になったという物語です。それで歴史上、福建省の寧化という地域は客家の重要な経路地として、客家がここを安全な場所として人々が集めて、そこから中国の南、西、或いは海外へ移住したわけです。福建省の寧化から台湾に渡った客家について、少しお話したいですが、客家は台湾人口の約15%前後占めていると言われていています。1760年代ごろ、つまり中国明時代の末から清時代の初期にかけて、中国の広東省から台湾に移住して来たと言われました。当時、客家に先立ち福建省からの移民が既に台湾で定住していたため、最初、客家は台湾に来た時、やむなく山地へ定住しました、18世紀初頭、土地争いなどで福建人としてはしばしば衝突を起こしました。昔、広東省から台湾へ移住する場合、台湾海峡を流れる海流の関係で南部にまず、船が到着します。従って、南部は最も古くから開発され、南部が客家の伝統文化の中心地と見なされます。台湾の主な客家居住地は平地と山地の間で、台湾の各地に分布していますが、とりわけ台湾北部の桃園、新竹、苗栗の三つの県に集中しています。また中部の東勢とその近隣の石崗郷及び南部の屏東、美濃にも客家の村落が多くあります。台湾の客家地域は台湾地図を見ると、台北から屏東にかけて南北に走る道路「台三線」の沿線に位置している事を説明すれば分かりやすいかもしれません。台湾の客家は長い年月をかけて多様な物質文化を創り出してきました。そのなかに「工芸品」や「美術品」として、高い評価をうけているものです。苗栗県は石彫、木彫、陶器、紙傘など工芸品が有名です。広東省や福建省の客家地域では石や木を彫る工芸が盛んで、昔、台湾に渡った広東省と福建省の客家達が持ってきて、今日にまで続けていると考えられます。客家の人々はしばしば東洋のユダヤ人と言われて、勤勉で、教育に熱心で働き者との高い評価があります。客家料理や客家の言語、昔、外敵から身の安全を守るため、作った円形土楼の客家の建築など、たくさんの客家文化があります。

現在、台湾苗栗を訪れている交換中学生の日程の中で昨日、台湾客家文化館を見学しました。機会があれば、是非、みなさんにも台湾客家文化館を見学して頂きたいと思います。

※スマイルは次号に掲載します。

(週報担当:小塚英樹)